サンプルのカスタム レポート

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/reporting/concept_sample_custom_reports.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

サンプルのカスタム レポート . . . 1
Active IQ Unified Manager のサンプルカスタムレポートについて . . . 1
クラスタストレージレポートをカスタマイズする . . . 1
Active IQ Unified Manager でクラスタモデル別の容量を表示するレポートを作成する . . . 1
Active IQ Unified Manager で未割り当て LUN 容量を持つクラスターを特定する . . . 2
Active IQ Unified Manager で利用可能な容量が最も多い HA ペアを表示するレポートを作成する . . . 3
Active IQ Unified Manager で古いバージョンの ONTAP を実行しているノードを表示するレポートを作成する . . . 3
アグリゲート容量レポートをカスタマイズする . . . 4
Active IQ Unified Manager で容量が上限に達しているアグリゲートを表示するレポートを作成する . . . 4
Active IQ Unified Manager で80%以上使用されているアグリゲートを表示するレポートを作成する . . . 5
Active IQ Unified Manager で過剰にコミットされているアグリゲートを表示するレポートを作成する . . . 6
ボリューム容量レポートをカスタマイズする . . . 6
Active IQ Unified Managerで Snapshotの自動削除が無効になっている、容量が上限に近づいているボリュームを特定する . . . 7
Active IQ Unified Manager でシンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定する . . . 7
Active IQ Unified Manager でクラウド層にデータを移動する必要があるボリュームを特定します . . . 8
Qtreeの容量レポートをカスタマイズする . . . 10
Active IQ Unified Manager でほぼ満杯の qtree を表示するレポートを作成します . . . 10
NFS共有レポートをカスタマイズする . . . 11
Active IQ Unified ManagerでNFS共有レポートをカスタマイズする . . . 11
Active IQ Unified Manager でアクセスできないマウントパスを持つボリュームを表示するレポートを作成する . . . 11
Active IQ Unified Manager でデフォルトのエクスポートポリシーを使用するボリュームを表示するレポートを作成する . . . 12
ストレージVMレポートをカスタマイズする . . . 12
Active IQ Unified Manager でストレージ VM レポートをカスタマイズする . . . 12
Active IQ Unified Manager で最大ボリューム制限に達しているストレージ VM を表示するレポートを作成します . . . 12
Active IQ Unified Manager で停止したストレージ VM を表示するレポートを作成します . . . 13
ボリューム関係レポートをカスタマイズする . . . 14
Active IQ Unified Manager でボリューム関係レポートをカスタマイズする . . . 14
Active IQ Unified Manager で障害の原因別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する . . . 14
Active IQ Unified Manager でボリュームの関係を問題別にグループ化するレポートを作成する . . . 15
Active IQ Unified Manager で一定時間間隔でのボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成する . . . 16
Active IQ Unified Manager で失敗または成功したボリューム転送を表示するレポートを作成します . . . 16
Active IQ Unified Manager で転送サイズに基づいてボリューム転送を表示するレポートを作成する . . . 17
Active IQ Unified Manager でボリューム転送を日ごとにグループ化して表示するレポートを作成します . . . 17

ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする 18
Active IQ Unified Manager で非
FabricPoolアグリゲート上のコールドデータが多いボリュームを特定するレポートを作成する 18

サンプルのカスタム レポート

Active IQ Unified Manager のサンプルカスタムレポートについて

以下に記載するサンプルのカスタム レポートを使用して、潜在的な問題を発生前に特定して対処することができます。

レポート リストはすべてのレポートを網羅しているわけではなく、今後も増えていきます。このセクションに追加して欲しいカスタム レポートがあれば、ドキュメントに関するフィードバックの形で提案していただくことができます。

レポートを操作するには、アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

クラスタストレージレポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でクラスタモデル別の容量を表示するレポートを作成する

クラスタのストレージ容量と利用率をストレージ システム モデルに基づいて分析するためのレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、クラスタ モデル別に容量を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. 「表示/非表示」を選択して、レポートに表示したくない「`Cluster FQDN`」や「`OS Version`」などの列を削除します。
4. 「`Total Raw Capacity`」、「`Model/Family`」、および3つの集計列を「`Cluster`」列の近くにドラッグします。
5. 「`Model/Family`」列の上部をクリックすると、結果をクラスターの種類別に並べ替えることができます。
6. ビューが示している内容を反映した特定の名前（たとえば「クラスタモデル別の容量」）でビューを保存します。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後に

あるチェックマーク（）をクリックします。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のクラスタに容量を追加したり、古いクラスタ モデルをアップグレードしたりすることができます。

Active IQ Unified Manager で未割り当て LUN 容量を持つクラスターを特定する

未割り当てのLUN容量が最も多い（0.5TBを超える）クラスタを検出するレポートを作成して、ワークロードを追加できる場所を特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、未割り当てのLUN容量が最も多いクラスタを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Unallocated LUN Capacity`」列を「`HA Pair`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 未割り当てのLUN容量が0.5TBを超えている
6. 「`Unallocated LUN Capacity`」列の上部をクリックすると、未割り当てLUN容量の大きい順に結果を並べ替えることができます。
7. ビューが表示している内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`Most unallocated LUN capacity`」と入力して、チェックマーク（）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、クラスタの未割り当てLUN容量を使用できます。

Active IQ Unified Manager で利用可能な容量が最も多い HA ペアを表示するレポートを作成する

新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が最も多いハイアベイラビリティ（HA）ペアを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、新しいボリュームやLUNのプロビジョニングに使用できる容量が多い順にHAペアをソートして表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > クラスター をクリックします。
2. 「表示」メニューで、容量 > *すべてのクラスター*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Aggregate Unused Capacity`」列を「`HA Pair`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - アグリゲートの未使用容量が0.5TBを超えている
6. 「`Aggregate Unused Capacity`」列の上部をクリックすると、未使用のアグリゲート容量が最も多い順に結果を並べ替えることができます。
7. ビューに表示される内容を反映した特定の名前（たとえば「使用率が最も低いアグリゲート容量」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートの容量に応じてHAペアのバランスを調整できます。

Active IQ Unified Manager で古いバージョンの ONTAP を実行しているノードを表示するレポートを作成する

すべてのクラスタ ノードにインストールされているONTAPソフトウェアのバージョンを表示するレポートを作成して、アップグレードが必要なノードを確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、古いバージョンのONTAPを実行しているノードを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*ノード*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「OS Version」列を「Node」列の近くにドラッグします。
4. 「OS Version」列の上部をクリックすると、最も古いバージョンの ONTAP 順に結果が並べ替えられます。
5. ビューの内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば、「Nodes by ONTAP version」とします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、古いバージョンのONTAPを実行しているノードをアップグレードできます。

アグリゲート容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager で容量が上限に達しているアグリゲートを表示するレポートを作成する

容量がフルに近づいているアグリゲートを検出するレポートを作成して、容量を追加したり、ワークロードを他のアグリゲートに移したりすることができます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、容量がフルに近づいているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - フルまでの日数が45日未満

5. 「Days to Full」列の先頭をクリックして、容量がフルになるまでの残り日数が少ない順に結果を並べ替えます。
6. ビューが表示する内容を反映した特定の名前（たとえば「アグリゲートがフル容量になるまでの日数」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、容量がフルに近づいているアグリゲートのストレージを拡張できます。また、アグリゲートのスペースが少なくなった場合に早めにイベントを受信して対応できるように、「フルまでの日数」容量しきい値をデフォルトの7日より多い日数に引き上げることができます。

Active IQ Unified Manager で80%以上使用されているアグリゲートを表示するレポートを作成する

80%以上フルのアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、80%以上フルのアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Available Data %」列と「Used Data %」列を「Aggregate」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
   - 使用済みデータ（%）が80%を超えている
6. 「Used Data %」列の上部をクリックすると、結果を容量率で並べ替えることができます。
7. ビューに表示されている内容を反映した特定の名前（たとえば「フルに近いアグリゲート」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、一部のアグリゲートからデータを移動できます。

Active IQ Unified Manager で過剰にコミットされているアグリゲートを表示するレポートを作成する

アグリゲートのストレージ容量と使用状況を分析するために、オーバーコミットされたアグリゲートを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、オーバーコミットのしきい値を超えているアグリゲートを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*アグリゲート*をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのアグリゲート」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Overcommitted Capacity %`」列を「`Aggregate`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
   - オーバーコミット容量（%）が100%を超えている
6. 「`Overcommitted Capacity %`」列の上部をクリックすると、結果を容量の割合で並べ替えることができます。
7. ビューが表示している内容を反映した特定の名前（たとえば「アグリゲートのオーバーコミット」）でビューを保存し、チェックマーク（✔）をクリックします。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アグリゲートに容量を追加したり、特定のアグリゲートからデータを移動したりすることができます。

ボリューム容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Managerで**Snapshot**の自動削除が無効になっている、容量が上限に近づいているボリュームを特定する

Snapshotの自動削除機能が無効になっていて容量がフルに近づいているボリュームをリストするレポートを作成できます。このレポートは、Snapshotの自動削除を設定する必要があるボリュームを特定するのに役立ちます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Snapshot`の自動削除」列と「`Days To Full`」列を「`Available Data Capacity`」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下の2つのフィルターを追加してから、**Apply Filter** をクリックします。
   - フルまでの日数が30日未満
   - Snapshotの自動削除が無効
6. 「満杯までの日数」列の一番上をクリックすると、残りの日数が最も少ないボリュームがリストの一番上に表示されます。
7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けてビューを保存します。例：「`Vols near capacity`」
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリュームでSnapshotの自動削除を有効にしたり、使用可能なスペースを増やす方法を特定したりすることができます。

Active IQ Unified Manager でシンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定する

シンプロビジョニングされていないボリュームは、ボリューム作成時に定義されたスペースの全容量をディスク上で占有します。シンプロビジョニングが無効になっているボリュームを特定することで、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にする必要があるかどうかを判断できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「容量」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`Used Data %`」列と「`Thin Provisioned`」列を「`Available Data Capacity`」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、次のフィルターを追加して、シンプロビジョニング済み を いいえ に設定し、フィルターを適用 をクリックします。
6. 「`Used Data %`」列の上部をクリックすると、使用データ率が最も高いボリュームがリストの上位に表示されるように結果を並べ替えることができます。
7. ビューの内容を反映した名前を付けてビューを保存します。例：「`Vols no thin provisioning`」。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. 「スケジュールの追加」をクリックして、「レポートスケジュール」ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドを完了したら、行の末尾にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、特定のボリュームでシンプロビジョニングを有効にすることができます。

Active IQ Unified Manager でクラウド層にデータを移動する必要があるボリュームを特定します

現在FabricPoolアグリゲートにあってクラウド階層に関する推奨事項があり、さらに大量のコールド データがあるボリュームのリストを記載したレポートを作成できます。このレポートは、特定のボリュームの階層化ポリシーを「`auto`」または「`all`」に変更して、より多くのコールド（非アクティブ）データをクラウド階層にオフロードすべきかどうかを判断するのに役立ちます。

開始する前に

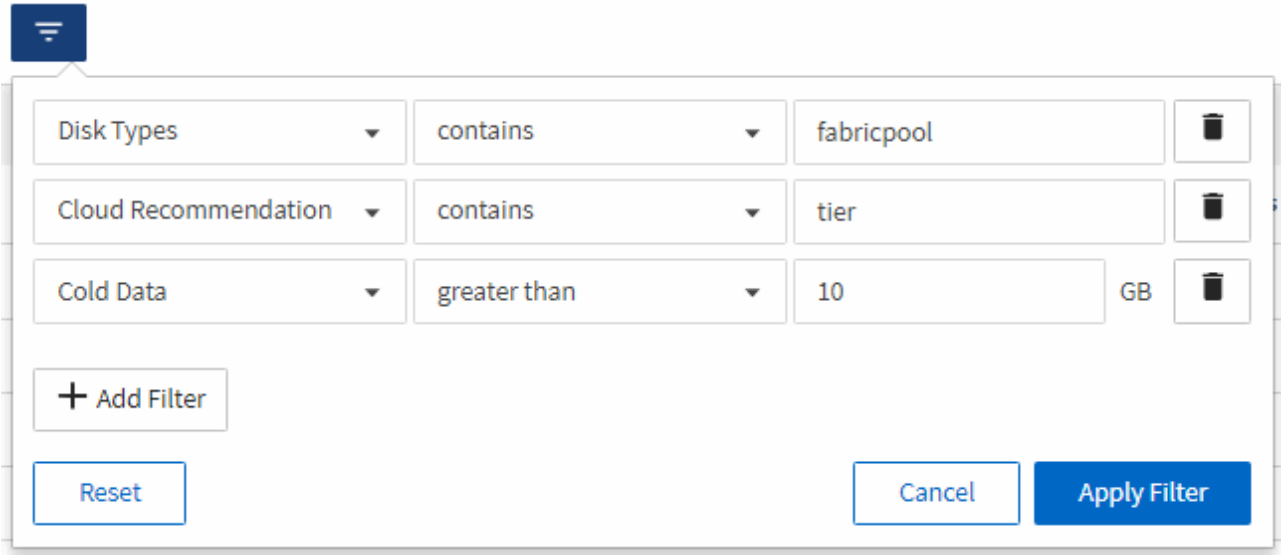
- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。
- FabricPoolアグリゲートを設定しておく必要があります。また、それらのアグリゲート上にボリュームが必要です。

次の手順を実行して、必要な列を正しい順序で表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

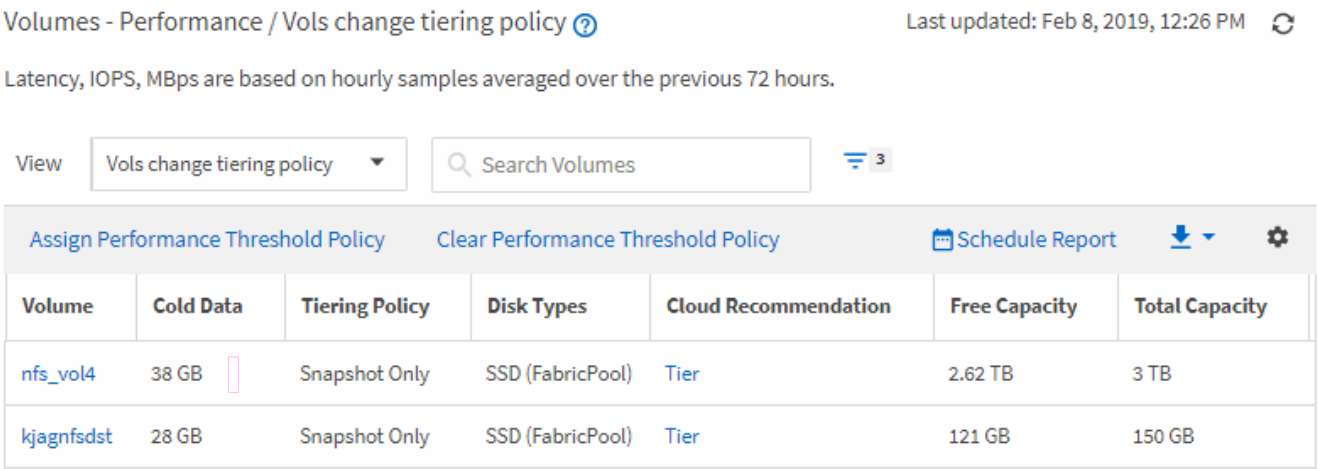
手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「パフォーマンス」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. 列選択画面で、「Disk Type」列が表示されていることを確認してください。

   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。
4. 「Disk Type」列を「Cloud Recommendation」列の近くにドラッグアンドドロップします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下の3つのフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
   - ディスクの種類にFabricPoolが含まれる
   - クラウドに関する推奨事項に階層が含まれる
   - 10 GBを超えるコールドデータ



6. [コールド データ]列の上部をクリックして、コールド データの量が最も多いボリュームがビューの先頭に表示されるようにします。
7. ビューの内容を反映した名前を付けて保存します。例：「Vols change tiering policy」



8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。

9. *スケジュールを追加*をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義できるようにします。
10. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに示された結果に基づいて、System ManagerまたはONTAP CLIを使用して、特定のボリュームの階層化ポリシーを「auto」または「all」に変更し、より多くのコールドデータをクラウド階層にオフロードすることをお勧めします。

Qtreeの容量レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でほぼ満杯の qtree を表示するレポートを作成します

qtreeのストレージ容量と利用率を分析するために、ほぼフルのqtreeを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ほぼフルのqtreeを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ>*Qtrees*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「Disk Used %」列を「Qtrees」列の近くにドラッグします。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックします。
    - 使用済みディスク（%）が75%を超えている
5. 「Disk Used %」列の上部をクリックすると、結果を容量の割合で並べ替えることができます。
6. ビューが表示している内容を反映した特定の名前（たとえば「Qtrees nearing full」）でビューを保存し、チェックマーク（✓）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. 「スケジュールの追加」をクリックして、「レポートスケジュール」ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

    テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ディスクのハード リミットやソフト リミットを調整したり（設定されて

いる場合）、qtree間でデータのバランスを調整したりすることができます。

NFS共有レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified ManagerでNFS共有レポートをカスタマイズする

ストレージ システム上のボリュームに対するNFSエクスポートのポリシーとルールの情報を分析できるように、[NFS共有]レポートをカスタマイズすることができます。たとえば、アクセスできないマウント パスがあるボリュームやデフォルトのエクスポート ポリシーを使用するボリュームを表示するように、レポートをカスタマイズできます。

Active IQ Unified Manager でアクセスできないマウントパスを持つボリュームを表示するレポートを作成する

マウント パスにアクセスできないボリュームを特定するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、マウント パスにアクセスできないボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > *NFS共有*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - マウント パスがアクティブではない
4. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`Volumes with an inaccessible mount path`」と入力して、チェックマーク（✓）をクリックします。
5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. スケジュールを追加 をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
7. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、アクセスできないマウント パスを修正できます。

Active IQ Unified Manager でデフォルトのエクスポートポリシーを使用するボリュームを表示するレポートを作成する

デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、デフォルトのエクスポート ポリシーを使用しているボリュームのカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > *NFS共有*をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「`Export Policy`」列を「`Volume`」列の近くにドラッグします。
4. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - エクスポート ポリシーにデフォルトが含まれている
5. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`Volumes with a default export policy`」と入力して、チェックマーク（✓）をクリックします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. スケジュールを追加 をクリックして、レポートスケジュールページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、カスタムのエクスポート ポリシーを設定できます。

ストレージVMレポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でストレージ VM レポートをカスタマイズする

Storage VMレポートを作成して、ボリューム情報を分析したり、全体の健全性とストレージの可用性を確認したりできます。たとえば、レポートを作成して、ボリューム数の上限に達したSVMを表示したり、停止したSVMを分析したりできます。

Active IQ Unified Manager で最大ボリューム制限に達しているストレージ VM を表示するレポートを作成します

ボリューム数が上限に達しているSVMを検出するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム数が上限に達しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > ストレージ**VM** をクリックします。
2. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
3. 「`Volume Count`」列と「`Maximum Allowed Volumes`」列を「`Storage VM`」列の近くにドラッグします。
4. 「`Maximum Allowed Volumes`」列の一番上をクリックすると、ボリューム数の多い順に結果を並べ替えることができます。
5. ビューが表示している内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`SVMs reaching max volumes`」と入力し、チェックマーク（✓）をクリックします。
6. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
7. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、Storage VMに割り当てるボリュームを調整できます。また、可能であれば、ONTAP System Managerを使用して許容される最大ボリューム数を変更することができます。

Active IQ Unified Manager で停止したストレージ **VM** を表示するレポートを作成します

停止しているすべてのSVMのリストを表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、停止しているStorage VMを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ > ストレージ**VM** をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「ヘルス」>「すべてのストレージVM」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「`State`」列を「`Storage VM`」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。

◦ 状態が停止である

6. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば「`Stopped SVMs`」と入力してチェックマーク（✓）をクリックします。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. *スケジュールの追加*をクリックして、*レポートスケジュール*ページに新しい行を追加し、新しいレポートのスケジュール特性を定義します。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、SVMが停止した理由を調査して、停止しているSVMの再起動が必要かどうかを確認できます。

ボリューム関係レポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager でボリューム関係レポートをカスタマイズする

ボリューム関係インベントリ レポートでは、クラスタ内のストレージ インベントリの詳細を分析できるほか、ボリュームに必要な保護レベルを把握したり、障害の原因、パターン、スケジュールに基づいてボリュームの詳細をフィルタリングしたりすることができます。

Active IQ Unified Manager で障害の原因別にボリューム関係をグループ化するレポートを作成する

関係が正常な状態でない理由別にボリュームをグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリュームを障害の原因別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、関係 > *すべての関係*を選択します。
3. 「`Relationship Health`」と「`Unhealthy Reason`」の列がビューに表示されるようにするには、**Show/Hide** を選択してください。

   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「`Relationship Health`」列と「`Unhealthy Reason`」列を「`State`」列の近くにドラッグします。

5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 関係の健全性に問題あり
6. 「Unhealthy Reason」列の上部をクリックすると、障害の原因別にボリュームの関係をグループ化できます。
7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存してください。例えば、「Vol relationships by failure」などです。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、障害のタイプごとに原因と影響を調査できます。

Active IQ Unified Manager でボリュームの関係を問題別にグループ化するレポートを作成する

ボリューム関係を問題別にグループ化するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム関係を問題別にグループ化するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、関係 > *すべての関係*を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Unhealthy Reason」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. 「Unhealthy Reason」列の上部をクリックすると、問題ごとにボリュームをグループ化できます。
6. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存してください。例えば、「Vol relationships by issue」などです。
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✓）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、問題のタイプごとに原因と影響を調査できます。

Active IQ Unified Manager で一定時間間隔でのボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成する

特定の期間のボリューム転送の傾向を表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、特定の期間のボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月間の転送状況」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「転送期間」列を「運用結果」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。
   - 転送終了時間が過去7日間以内
6. 「`Transfer Duration`」列の上部をクリックすると、ボリュームを時間間隔で並べ替えることができます。
7. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けてビューを保存します。例：「`Volumes by duration`」
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、頻度を*Weekly*に設定し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送期間を調査できます。

Active IQ Unified Manager で失敗または成功したボリューム転送を表示するレポートを作成します

ボリューム転送のステータスを表示するレポートを作成できます。このレポートでは、失敗したボリューム転送と成功したボリューム転送の両方を確認できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、失敗した転送と成功した転送を表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。

2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月間の転送状況」を選択します。
3. レポートに表示したくない列を削除するには、*表示/非表示*を選択してください。
4. 「Operation Result」列を「State」列の近くにドラッグします。
5. 「Operation Result」列の上部をクリックすると、ボリュームをステータス順に並べ替えることができます。
6. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「Volumes by transfer status」
7. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
8. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、転送ステータスを調査できます。

Active IQ Unified Manager で転送サイズに基づいてボリューム転送を表示するレポートを作成する

ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を転送サイズに基づいて表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月の転送レート」を選択します。
3. 「Total Transfer Size」列の上部をクリックすると、ボリューム転送をサイズ順に並べ替えることができます。
4. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「Volumes by transfer size」
5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム関係を転送サイズ別に調査できます。

Active IQ Unified Manager でボリューム転送を日ごとにグループ化して表示するレポートを作成します

ボリューム転送を日付別に表示するレポートを作成できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、ボリューム転送を日付別に表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「関係」＞「過去1か月の転送レート」を選択します。
3. 「Day」列の上部をクリックすると、ボリューム転送を日ごとに並べ替えることができます。
4. ビューの内容を反映した具体的な名前を付けて保存します。例：「Volume transfers by day」
5. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
6. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、ボリューム転送を日付別に調査できます。

ボリュームパフォーマンスレポートをカスタマイズする

Active IQ Unified Manager で非**FabricPool**アグリゲート上のコールドデータが多いボリュームを特定するレポートを作成する

FabricPool以外のアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するレポートを作成できます。このレポートから、FabricPoolアグリゲートに移動する必要があるボリュームを特定できます。

開始する前に

- アプリケーション管理者またはストレージ管理者のロールが必要です。

次の手順に従って、FabricPool対応でないアグリゲート上のコールド データを大量に含むボリュームを表示するカスタム ビューを作成し、そのビューのレポートを生成するようにスケジュール設定します。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、ストレージ ＞ ボリューム をクリックします。
2. 「表示」メニューで、「パフォーマンス」＞「すべてのボリューム」を選択します。
3. 「Disk Type」列がビューに表示されるようにするには、「表示/非表示」を選択してください。

   他の列を追加または削除して、レポートにとって重要なビューを作成します。

4. 「Disk Type」列を「Cold Data」列の近くにドラッグします。
5. フィルターアイコンをクリックし、以下のフィルターを追加してから、*フィルターを適用*をクリックしてください。

- コールド データが100GBを超える
- ディスク タイプにSSDが含まれる

6. 「ディスクタイプ」列の上部をクリックしてボリュームをディスクタイプで並べ替え、ディスクタイプSSD（FabricPool）が一番下になるようにします。
7. ビューが表示する内容を反映した特定の名前でビューを保存します。たとえば、「`Cold data vols not FabricPool`」。
8. インベントリページの「スケジュール済みレポート」ボタンをクリックします。
9. レポートスケジュールの名前を入力し、その他のレポートフィールドへの入力を完了したら、行の最後にあるチェックマーク（✔）をクリックします。

   テスト レポートがすぐに送信されます。以降、指定した頻度でレポートが生成され、リスト内の受信者にEメールで送信されます。

レポートに表示された結果を基に、FabricPoolアグリゲートに移動した方がよいボリュームを特定できます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。